

## 世界戦後の地名考 (九)

### 灌 川 規 一

アン(Ain)。東佛蘭西の縣。ローン(Rhône)河とソーン(Saône)河の間にあり、東北は瑞西のヴォ(Vaud)及びゼニーズ(Geneva)の二州に境してゐる。二、二四八平方哩の面積を有しアン河が横断してゐる。主要産物としてセイセル(Seysel)アスファルトが造られる原料として有煙炭石灰を産出する。主要都會はブルグ(Bourg)及びベルン(Belley)であり、前者は縣の首府である。縣名アンはローン河の支流アン河より附けられたものである。人口三十一萬七千餘

エイツリ(Aintree)。英蘭リヴァプール(Liverpool)の郊外にあり、倫敦中南鐵道(L. M. S. Ry.)沿線にあり。またリーズ・リヴァプール運河(Leeds and Liverpool Canal)の河畔にある。

運河を横切つて競馬場が設けられ、この競馬場に於てはグランド・ナショナル・ステープルチェース(Grand National Steeplechase)と稱せられる競馬が行はれるので有名である。この競馬は單に略してグランド・ナショナルとも稱せられ、郊外に出で田野等を横断して行はれるクロス・カンツリ・レースである。一八三九年に創始され、毎年リヴァプール春季運動競技會(Liverpool Spring Meeting)の金曜日に催される。競馬のコースの延長八五六ヤードであり、三十個所のジャンプがある。水を跳び超えるウォータージャンプは十五呎の廣さがあり、他に二つの難障害物がある。それはヴァレンタインズ・ブルーク(Valentine's Brook)と稱する小川とベッチャス・ブ

ルーク (Becher's Brook) と稱する小川である。競馬がクロスカンツリ・レースであり、而かも障害物競争であると聞く丈けでも勇壯な感がある。

**アイル (Aif)**。又はアスベン (Asben) と稱す。アフリカの佛領サハラのオエシスであり、サルタンの領地である。山岳地帯であり氣候は温和である。低地部は地味肥沃であり、棗椰子を多く産し藍と旋那とを産す。住民は主としてツアング (Tuareg) 族であり、首府はアガデス (Agades) と云ひ、アスベン (Asben) 町は北及中央アフリカに對するキラバンの中心地である。

**エアツリ (Airdrie)**。蘇格蘭ラナーークシャー (Lanarkshire) の開市都會。グラスゴから十一哩東にあり。L. M. S. 鐵道・L. N. E. 鐵道の兩鐵道沿線にあり、モンクランド運河 (Monkland Canal) が附近にある。産業としては石炭採掘・製鐵及び眞鍮製造・機械製造・綿業絹布業及び製紙がある。主要建物は市會議事堂・専門學校・機械研究所及び圖書館である。この圖書館は一八五

六年に創設され、現今の建物は一八九四年に建築されたものであるが、蘇格蘭に於て最初の無料公開の圖書館であるとの誇をもつてゐる。

**ヘア (Aire)**。英蘭ヨークシャー (Yorkshire) の河。ペンナイン (Pennine) 山脈に發源し、モルハム・タルン (Malham Tarn) と稱する峽谷に流れ込み短距離の間地下に潜流しモルハム村の北に再び現はれ、それより先づ南に流れ、次に東南に轉じグール (Goole) の上手に於てウーズ (Ouse) 河に合す。リーズ (Leeds) の上手に於てヘアデール (Airedale) の低地を貫流しスキプトン (Skipton) の西に於てヘア・ギャップ (Air Gap) と稱する山峽を作り、ペンナイン山脈を通つてリッブルデール (Ribble Dale) に至る通路となつてゐる。ヘア及びコルダ航行 (Aire and Calder Navigation) と稱する航路はヨークシャーの産業都市を連絡し河川と運河とより成る水路系統である。ヘア河の全長は七四哩であつて、この水路系統の主要河港はグールである。二つの主要路

線はグールとリーズ間の線と、カースルフォード (Castleford) とウェークフィールド (Wakefield) 間の線である。エア・コルダ航路は研究の價値を有する。

エアデル (Airedale)。英蘭ヨークシャーのエア河畔の上流低地。モルハム・コーヴ (Malham Cove) と云ふ入江からリーズまで三五哩の延長を有してゐる。エアデル・テリア (Airedale Terrier) と云はれる犬はもとこの低地に於て養育されてゐたが故に種の名稱となつてゐる。この獵犬は鳥等の獲物を見出して持ち歸るに特別の技量を有するが故に、所謂リッリーヅァ (Fetie-ven) 犬としてよく、また伴犬としてもよい。數種の變種があるが、そのうち軟毛を有するものと硬毛を有するものとに二大別され、硬毛を有するものはスコッチ・テリアと稱する犬と酷似してゐる。

ヒーン (Aisne)。佛蘭西の河。ムズ (Meuse) 縣に源を發し、西に流れコムピエンヌ (Compi-

egne) 附近に於てオアズ (Oise) 河に合す。ムズ河とマルン (Marne) 河とが運河によつて連絡してゐるが故にエーン河はその全長一七五哩の半以上も航行することが出来る。

エーンはまた東北佛蘭西の縣の名である。エーン縣の首府はローン (Laon) であり、ソアン (Soissons) は主要都市である。縣の人口五十萬餘。

エーン河畔の戰鬪。エーン河畔に於て行はれた最初の戰鬪は一九一四年九月十三日より二十日にかけて行はれた。獨乙軍は九月六日より十日にかけてマルン河畔に於て敗北した。後退して來た獨乙の殘軍を同盟軍側は全滅せしめんが爲めにエーン河を渡らんと欲した。戰線の全長はコムピエンヌからレイム (Reims) の東タウル (Tahure) に至り百哩に及んでゐる。英軍はサ・ゼ・フレンチ (Sir. J. French) 將軍の下にソアンンの南からヴァンセル (Vauxcèrè) に至る間を攻め、佛軍はフォッシュ (Foch) 將軍指揮下の佛蘭

西第九軍團が他の佛軍援助の下に北進しレイム附近まで迫つた。敵の砲火の下に架橋作業をなし成功したが、戦争は各地に於て勝敗が双方にあつた。然し戦闘は抄しからず遂に塹壕戦に移つた。英軍は爲めにフランダース (Flanders) に移動した。この戦闘によつて初めて塹壕戦なるものが創始され、大戦中は西部戦線に於て塹壕戦が事實上繼續されたのであつた。

第二回の戦闘は一九一七年四月十六日より五月二十日に至る間繼續した。この戦闘は一九一八年が来るまでに獨の西部戦線を突破せんとする企であつた。佛蘭西政府は戦況抄しくないの爲に總指揮官のジョッフル (Joffre) をしてニヴェル (Nivelle) と交替せしめた。政府は最終的に大攻勢に轉じ獨軍の戦線を突破し塹壕戦を終結せしめ、移動戦を作つて敵の側面を突き以て戦争終結を早めんと欲した。ニヴェルは政府の意圖を受けて大軍を以てソアソンとレイムとの間のエーン河畔を攻めた。

英軍はこの攻勢より敵の注意をそらす爲めにアラス (Arras) に於て敵を攻撃した。攻勢をとつた最初の日に佛軍はシャヴォンヌ (Chavonne) に於てエーン河を渡つたが撃退された。然しシエマン・ジ・ダーム (Chemin des Dames) に沿つて西進しベルメリクール (Berméricourt) 及びクルシ (Courcy) を奪取し敵の捕虜一萬を得て獨乙の塹壕線を一哩の奥にまで突破した。毎日非常なる決心を以て攻撃を新にしたが、敵の戦線を單獨工作を以て突破せんとするニヴェルの計畫は不可能であることが判明し、佛國政府はニヴェルに攻勢放棄を命じた。佛軍の損失は夥しく加ふるに軍中に重大なる叛亂さへ起つた。爲めにニヴェルは指揮官の位置を失つた。この戦役に於ける獨軍の損失は捕虜三萬、大砲二百二十七門であつたと云ふ。

第三回のエーンの戦闘は一九一八年五月二十七日より六月十八日に行はれた。今回の戦闘は一九一八に入つて西部戦線に於て獨軍が攻撃に

出た第三回目である。三月及び四月に用ひた同じ方法によつて獨軍はシエマン・ヅ・ダムから佛軍の四個師團を驅逐し、同盟軍の中央を突破してエーン河まで達した。五月二十九日には獨軍はソアソンを強襲し三十日にはマルンまで達した。然るに獨軍は強行軍であつたが爲めに疲勞の極に達して居つたので同盟軍の逆撃を奏し遂にエーンの戦役を終結せしめた。獨軍は實に巴里より四十哩の地點まで進んでゐたのである。

**アイヴァリク**(Aivalik)。又はアイウァリク(Aivalk)。小亞細亞の西海岸にある海港。アドラミチ(Adramycti)灣に面しスミルナ(Smyrna)の北六十六哩にあつて、古代のヘラクレイア・ポンチカ(Heraclia Pontica)があつた附近にあり希臘人はこれをキドニア(Kydonia)と呼んでゐる。一〇二一年の昔に土其古人によつて焼かれたことがある。輸出品は橄欖油・穀類・木材及び獸皮である。アウアリクと云ふ語の意は椶櫚と

いふ義である。人口二萬一千。大部分は希臘人である。

**エース**(Aix)。佛蘭西の都會であつて、ブーシュ・ローン(Bouches-du-Rhône)縣にある。マルセル(Marseilles)の北にあり鐵道によつて一八哩である。古代にアクエ・セクスチエ(Aquae Sextiae)と云ひ羅馬の總督セクスチス・カルヴィヌス(Sextius Calvinus)が創設したのでセクスチスの温泉といふ意であつた。温泉の周圍に人家が建築され都會となつたのである。大僧正の居住地であつて十一世紀の伽藍があり、大學は一四〇九年に創設され今日はマルセルの大學と合同して總合大學を作つてゐる。市内には大なる圖書館があり、工藝學校があり、博物館・法廷及び市會議事堂がある。もとこの市はプロヴァンス(Provence)の首府であつた。人口三萬に近い。

**エース・ラ・シャペル**(Aix-La-Chapelle)。獨逸の都會。ライン州にあり、獨名アーヘン(Aac-

hen)。和蘭・白耳義の國境近くにあり、コローン(Cologne)の西に當り、鐵道によつてコローンより四五哩。この市の二大建造物は伽藍と議事堂(Rathaus)である。

伽藍は七九六―八〇四年シャルマン(Charlemagne)大帝によつて舊建物跡に建立されたものであつて、其後オット(Otto)三世によつて九八三年に増築された。シャルマン大帝はこの伽藍に葬られてゐる。古代の建物は幾分今日猶殘存してゐるが、聖歌合唱室及び多くの祠堂は十四五世紀のものである。シャルマン大帝の遺骨は他の遺物と共に伽藍の寶庫に收藏されて居る。ラート・ハウス即ち市會議事堂は大帝の宮殿跡に建てられたものであつて、十四世紀の建造である。舊市街にはグラスハウス(Grashaus)があり、今日は古記録保存所に用ひられて居り舊市街の門が二つ残つて居る。その他多くの昔の教會が殘存してゐる。舊市街の周圍には魚市場・開市場の廣場・伽藍前の廣場があり新市街と

郊外とがある。東には硫黄泉及び鐵鑛泉があり附近には有名なクールハウス(Kurhaus)及びクールザール(Kursaal)がある。スエルモント博物館(Suermondt Museum)には繪畫の貴重なる蒐集がある。

この地は昔羅馬人に知られ、羅馬人はこれをアクイスグラナム(Aquisgranum)と呼んで居り鑛泉が湧出するを以て遂に都會となつた。シャルマン大帝はこの地を好んで住居し、爾來七百年間獨乙の皇帝の戴冠式の行はれる場所となつた。一八〇一年には佛領となり、一八一五年にはプロイセンに與へられた。

この市の今日の繁榮は廣大なる石炭發掘の開始によりてもたらされ、直接鐵道によつてコロン、ブラッセルス(Brussels)、アントワープ(Antwerp)及びリエージュ(Liège)と連絡せる交通によつてもまたその繁榮を援けられてゐる。市の製造物は布類・織物類・諸種の鐵製品・化學藥品及び麥酒である。市は擴大して郊外にあるブ

ルトシャイト(Burtscheid)を一八九七年に併合した。こゝには醫療に効驗のある礦泉がある。エース・ラ・シャペルの人口は十五萬六千餘。

種々の條約がこの地に於て協定された。第一に佛蘭西と西班牙との間に起つた短期間の引渡し戦争(War of Devolution)の終結として一六六八年に條約が協定された。第二は一七四八年の協定であつて、この協定には一七五〇年に逐加がある。オーストリアの王位繼承戦(War of The Austrian Succession)が行はれ、一方は英國・墺國・和蘭の聯合軍と一方は佛國・普ルシア及び西班牙の聯合軍との間に戦争が行はれてゐたがこの協約によつて戦争は終結となつた。第三は一八一八年の協定であつて、英國・墺國・露國及び普ルシアとの間に締結され、その結果佛蘭西が撤退することになつた。

ヘース・レ・バン(Aix-Les-Bains)。佛蘭西サヴォア(Savoie)縣にある東南佛蘭西の都會。溫泉場として有名であり、シャムベリ(Chambery)の

北に當り、鐵道にて八哩の距離にある。パリ・チューリン(Paris-Turin)鐵道沿線にあり海拔八二三呎の高さにあり溫泉なるが故にリュマチ及び痛風に効があり、温泉及び飲料に用ひられてゐる。羅馬人の寺院・浴場及び凱旋門の遺物は猶殘つてゐる。

アジャチオ(Ajaccio)。コルシカ(Corsica)の都會で首府。アジャチオ灣の北海岸にあり、鐵道はカルヅイ(Calvi)-バスタ(Bastia)とに連絡し、汽船はマルセルとニース(Nice)とに連絡してゐる。七世紀以來僧正の居住地であつて伽藍があり、大學があり、圖書館・博物館がある。ナポレオン一世が生れた家がある。大なる港は要塞で圍繞されてゐる。近年に無電局が設けられた。氣候温和で空氣清澄なるが爲めに歐洲人は避寒の爲めに滞在するものが多い。人口九萬に近す。